

第5章 計画の方向性と基本理念

1 これまでの成果や課題を踏まえた計画の重要な「三つの観点」

第2章から第4章では、環境の変化や国・北海道の動向、これまでの計画の取組やその成果などを抽出したうえで、課題や目指したい姿などを掲げ、実現に向けた今後の対応の方向性を示してきました。

それぞれの方向性を見ていくと、第2章から主に社会や環境の変化への対応が重要であること、第3章から主に身近な地域での取組が重要であること、第4章からは、これらに加えて適切な取組や対応の継続・持続が重要であることが浮き彫りになってくるものと考えます。

こうしたことから、今後の方向性の一つ一つは、第6章に記載する具体的な取組などに反映させるとともに、それぞれの方向性を類似性や関係性に着目して次のようにまとめ直し、計画の基本理念を定めるうえで重要な「三つの観点」として定義することとします。

観点1：(地域での取組→)「**地域展開**」＝これまで以上に地域・コミュニティの重要性が増す中、地域特性を踏まえた上で市民が身近な地域で自ら学び、サービスを活用する方法を考える観点。

観点2：(変化への対応→)「**変化に対応した読書環境・図書館**」＝情報化の進展や地域の教育力の低下、感染症対策など、環境の変化に柔軟に対応し、広い視野で図書館政策や読書環境の充実を考える観点。

観点3：(継続・持続→)「**取組の継続・持続可能性**」＝今後とも全ての人にとって必要性の高い取組を継続するとともに、図書館運営を前向きに持続するために、財源や人材確保、事業内容など様々な見直しを考える観点。

2 基本理念

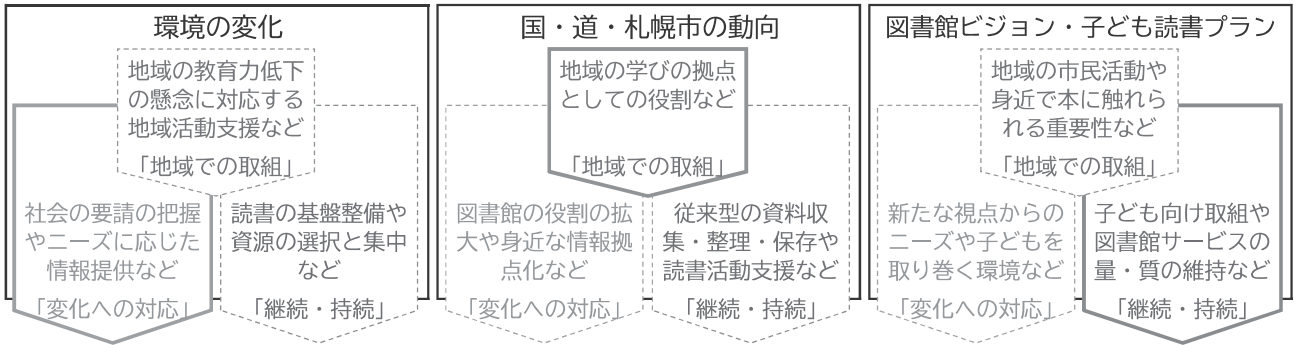
この計画では、上記の重要な三つの観点を踏まえ、新たに取り組を行っていくこととなりますが、札幌市の総合計画である戦略ビジョンや「札幌市教育振興基本計画」、また個別計画である「札幌市生涯学習推進構想」のほか、この計画の前身である図書館ビジョンや子ども読書プランなどとも、連続性や継続性、整合性を保ちながら取り組を進めていく必要があります。

そこで、従来から図書館の主な役割として考えられてきた、市民の学ぶ自由・知る自由を守りつつ、乳幼児から高齢者までの生涯を通じて行われる読書活動支援を中心とした取組だけにとどまらず、これまで以上に、身近な地域で市民の学びや創造的な活動を支える「知の拠点」となる図書館として市民に浸透するよう、この計画では、重要な三つの観点も踏まえた基本理念を次のように定めることとします。

「市民の生涯にわたる学びや創造的な活動を支える」

成果や課題を考慮した取組の方向性を重要な三つの観点、更にはこれらを踏まえた基本理念と基本方針についてまとめると次の図のようになりますが、それぞれの基本方針に沿った取組は第6章として具体的に示します。

【計画の重要な三つの観点と基本理念及びその実現のための基本方針（概念図）】



(類似性や関係性に着目して三つの観点で方向性をまとめ直し)

